

# 支援のアイデア 障害特性に基づいた支援

社会福祉法人 正夢の会  
パサージュいなぎ 支援ディレクター  
堀内太郎

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える（方法の視点・やりとりの視点）
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたいのか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点） H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点） J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点） L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

• 本講義は  
演習 3 「特性の分析」  
にも関連のある内容です。  
差込資料③  
「特性確認シートを  
お手元にご用意頂きながら  
ご聴講頂ければ幸いです。

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具 A) 体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)  B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点)  「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる C) ように伝える（方法の視点・やりとりの視点）
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	

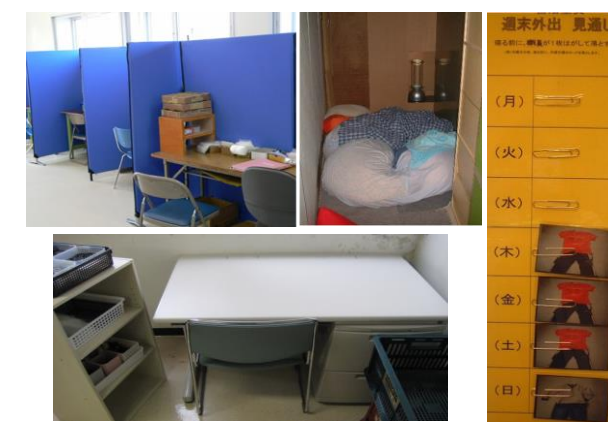
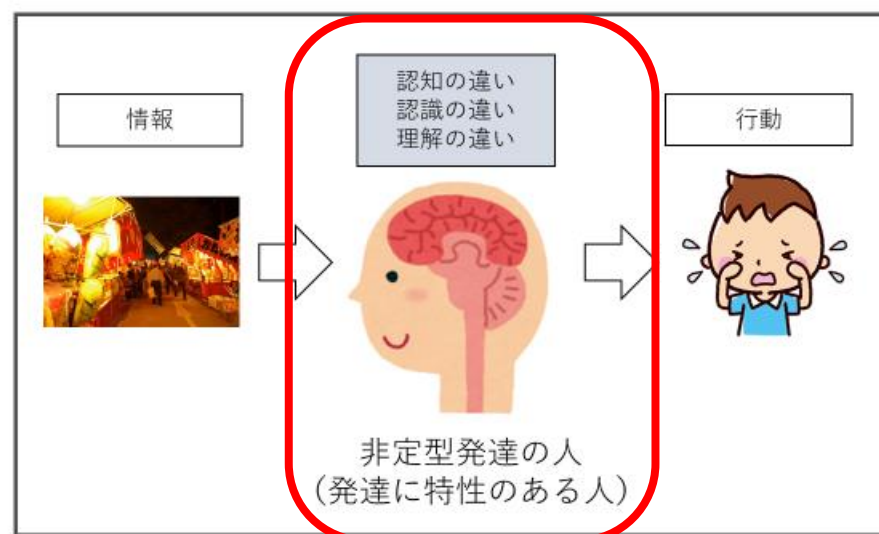
脳の認知、認識、理解の傾向



一般的な支援のアイデア

人は情報を脳で処理をして行動をしている

講義 2  
「強度行動障害の理解」  
～障害特性の理解～  
より



# この時間で学ぶこと1

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害の状態になることを予防する支援を行うことができます。
- この時間は、自閉症の特性をベースにした予防的な支援の在り方を理解することがテーマです。

## この時間で学ぶこと2

- また、本人の状態像の変化に応じて支援をリニューアルしていかなないと、本人とのズレが生じてしまうこともあります。その場合は、改めて今までの支援を見直し、さらに支援の補整や補強を行っていきます。

# この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の道筋
- ② 目で見てわかる支援が基本
- ③ 支援のポイントはどこにあるか
- ④ 具体的な支援のアイデアを動画で
- ⑤ 支援を見直すことの重要性

# ① 支援の道筋

# 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、II について主にお話しします。



# 「障害者権利条約」(2006) と障害者施策の動向

『障害のある人も障害のない人と同じく  
「社会的障壁(バリア)」を減らし、  
地域で自分らしく生活できるようにする』



2026(令和8年)

障害者支援施設では

地域生活移行,入所施設以外の日中活動利用など

意向確認担当者の設置や個別支援計画への意向反映義務化—

地域移行,定員削減の評価設定

意思決定に必要な体験や機会の提供,  
地域生活への移行を推進することが  
求められています—

# 近年の障害者施策の動向と自閉スペクトラム症

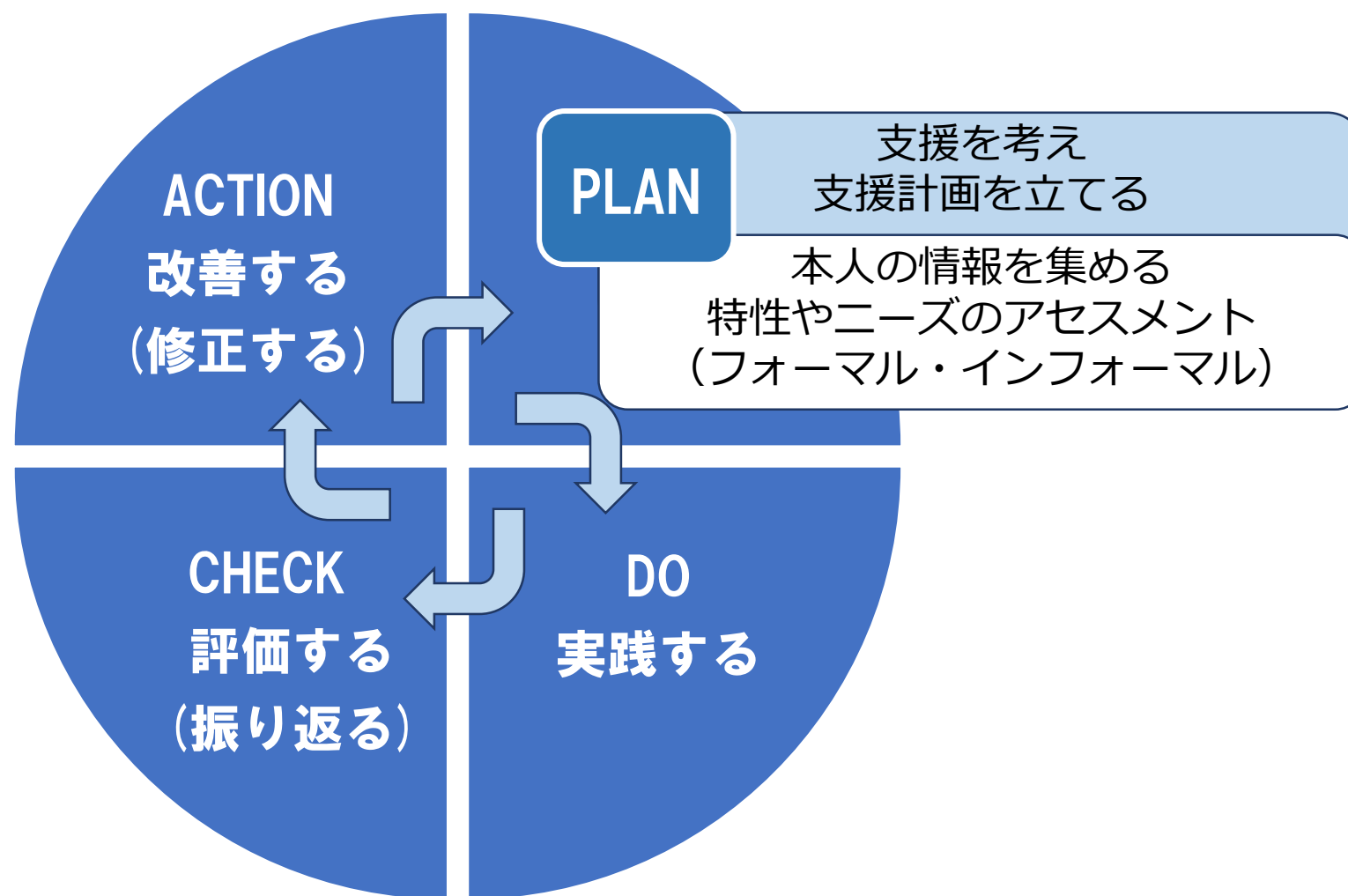
「新しいこと」「未体験のこと」に不安が高さや混乱のある  
自閉スペクトラム症や強度行動障害の状態にある方に  
「障害のない人と同じような地域生活の体験や移行」が  
できる方向での支援を推進していく為にはー

「特定の生活空間で安心して過ごせる」ようになった後も  
「支援のアイディア」＝合理的配慮を日常的に提供できると  
行動障害の「予防」だけでなく、  
より多くの新しい経験や地域生活への移行、  
社会的活動への参加に近づける可能性が高くなります



予防的で基本的な支援をベースに、  
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

## 強度行動障害の支援



予防的で基本的な支援

よりよい人生へと向かう

## ② 目で見えてわかる支援が基本

- 目で見てわかる支援をするのはなぜか？
  - 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
  - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
  - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

⇒これらは歩行障害,聴覚,視覚障害と同じ  
「脳の機能障害」



- 目で見てわかる支援をするために
  - わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
    - = その人に合わせた支援
    - = 合理的配慮

歩行障害,聴覚障害,視覚障害の人と同じように  
「脳の機能障害」に合わせた支援が  
「社会参加や地域生活」を可能にしていく



=



③ 支援のポイントはどこにあるか

# 確実に伝えたい6つの情報

- 
- 
- 
- 
- 
-



# 6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- (生活の見通し)
- (活動との対応・刺激の整理)
- (やり方・終わり・次)
- (ヒント・着目)
- (コミュニケーションツール)

# 時間の工夫 (生活の見通し)

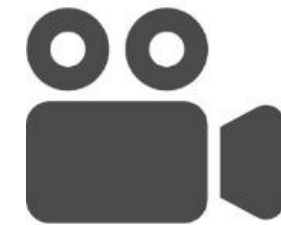
- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

# 時間の工夫 (生活の見通し)

- \* 支援を始める前に、個々の当事者について  
情報収集して知っておきたい情報
  - ・ 本人が理解できる視覚ツールの種類  
(文字・写真・絵・具体物など)
  - ・ 本人が見通せる情報の量  
(1場面・2場面・半日・1日, カレンダーが分かるなど)
  - ・ 法則性の理解  
(上から下, 左から右などの流れが理解できる)

# アセスメント(情報収集)の視点

例) 写真の理解について



無発語、重度知的障害を伴う、自閉スペクトラム症の男性  
「写真」を認識できるか確認する為、  
「写真のマッチング」を行いました

# 写真マッチングの理解について

## ■ マッチング1回目の様子

理解度 / ☐P : できた ☒F : できなかった ☐E : 芽生え

## ■ マッチング2回目の様子

理解度 / ☒P : できた ☐F : できなかった ☐E : 芽生え

## ■ 気付いたこと（あれば）

\* スタッフのお手本提示 1回目 テレビ⇔テレビ（1種類）  
2回目 コップ⇔コップ 車⇔車（2種類）

\* 2回目、スタッフのカード手渡しをきっかけに自分から仕分ける  
マッチングの意味を理解して、適切に仕分けできている。

\* 「初めて」のことは、「意味」が理解できるまで何回か試行が必要

\* 繰り返しの学習で、意味を理解できるものもある

\* 2回目終了後、自ら居室に戻った

（スタッフに対して意思表示なし ⇒ 社会性，コミュニケーションの特性評価）

# 理解できる視覚ツールのアセスメント

マッチング、仕分け課題で「お試し」するのもひとつの方法

具体物のマッチング



形のマッチング



文字と写真のマッチング



形のマッチング



写真のマッチング



色のマッチング







写真+文字・半日



写真・半日



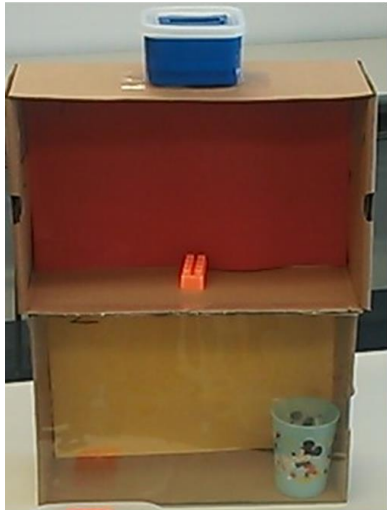
写真・1 場面



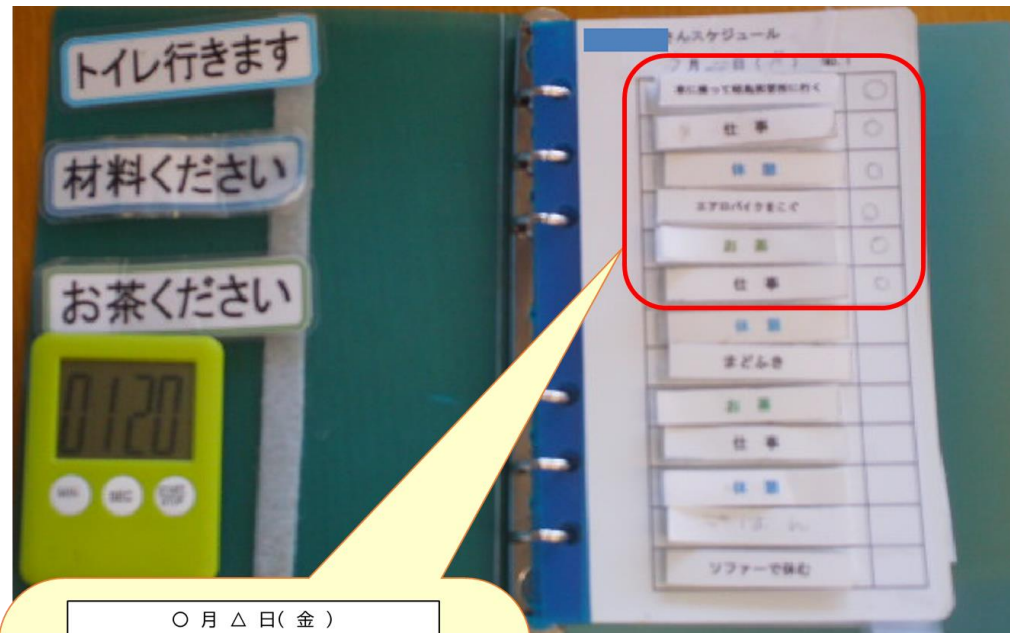
「終わり」や「待ち時間」を伝える為の  
タイマー活用



実物・1場面



実物・2場面



○月△日(金)	
車に乗って〇〇作業所へ行く	○
仕事	○
休憩	○
エアロバイクをこぐ	○
お茶	○
仕事	○

文字・1日・チェック式  
+タイマー(携帯)

4月カレンダー

月	火	水	木	金	土	日
	しせつ ほーむ 1	しせつ ほーむ 2	しせつ ほーむ 3	しせつ ほーむ 4	やすみ ほーむ 5	やすみ ほーむ 6
	しせつ ほーむ 7	しせつ ほーむ 8	しせつ ほーむ 9	しせつ ほーむ 10	やすみ ほーむ 11	やすみ ほーむ 12
	しせつ ほーむ 13	しせつ ほーむ 14	しせつ ほーむ 15	しせつ ほーむ 16	やすみ ほーむ 17	やすみ ほーむ 18
	しせつ ほーむ 19	しせつ ほーむ 20	しせつ ほーむ 21	しせつ ほーむ 22	やすみ ほーむ 23	やすみ ほーむ 24
	しせつ ほーむ 25	しせつ ほーむ 26	しせつ ほーむ 27	しせつ ほーむ 28	やすみ ほーむ 29	やすみ ほーむ 30

カレンダー・1日  
(連絡帳にファイル)



課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる C) ように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) E) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
感覚	感覚が敏感または鈍感	22) 興味関心が狭くて強い	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
		25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

どんな特性に配慮しますか

■ 関係のありそうな特性

- 5)周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい(社)
- 7)話し言葉の理解が難しい(コ)
- 16)段取りを適切に組む事が難しい(想)
- 18)今やることを自分で判断することが難しい(想)
- 19)先の予測をすることが難しい(想)

■ 支援のアイディア

- C)「いつ」「どこで」「何を」の情報を見て分かるように伝える
- D)本人が理解できる見える情報(文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など)で伝える
- G)本人に分かりやすく予定や変更を伝える
- H)始まりや終わりを分かりやすいようにする

※)上記は視点の一例です

# 時間の工夫（生活の見通し）



写真+文字・半日



写真・半日



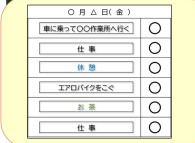
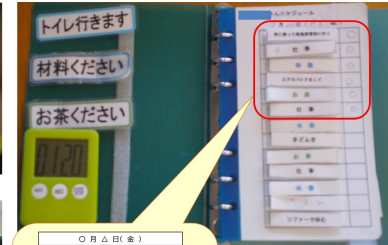
写真・1場面



実物・1場面



実物・2場面



文字・1日・チェック式  
+タイマー（携帯）

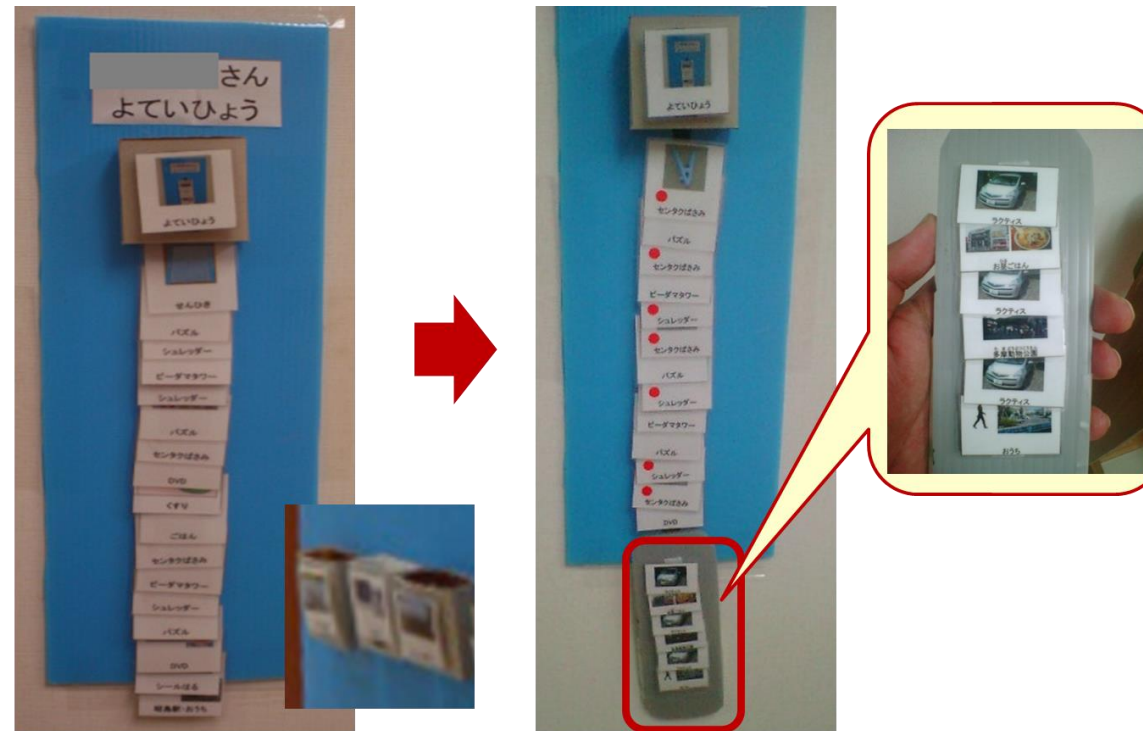


カレンダー・1日  
(連絡帳にファイル)



- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見て分かるように伝える  
…「今」「どこで」「何を」するのか分かりやすく安心して生活できる  
…5),7),18),19)
- D)個人ごとの「分かりやすい情報」で伝える…5),7),18)
- G)生活の流れを予測でき安心感を得られやすく、  
日常支援を受けていると初めての場所,予定の変更に対しても柔軟性を  
獲得しやすい…5),7),16),19)
- H)終わりや始まりも分かりやすくなることで、  
社会参加の機会も増える  
…5),7),16),18),19)

# 意思決定に必要な体験や機会の提供 地域生活への移行にむけて



写真＋文字・半日

外出支援時

日常的に[時間の工夫]の支援を受けることで本人の中で  
スケジュール(予定表)が「馴染みのある方法・手続き」になる

⇒不安・混乱が心配される「初めて」の  
場所や体験,社会的活動への参加場面において,  
「馴染みのある方法・手続き」は  
大きな「安心材料」になる

# 場所の工夫

## (活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
  - 整理整頓は基本中の基本
  - エリア（境界）を明確に
  - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする



## [境界の明確化]



テープ (境界線)



マットでエリアを明示

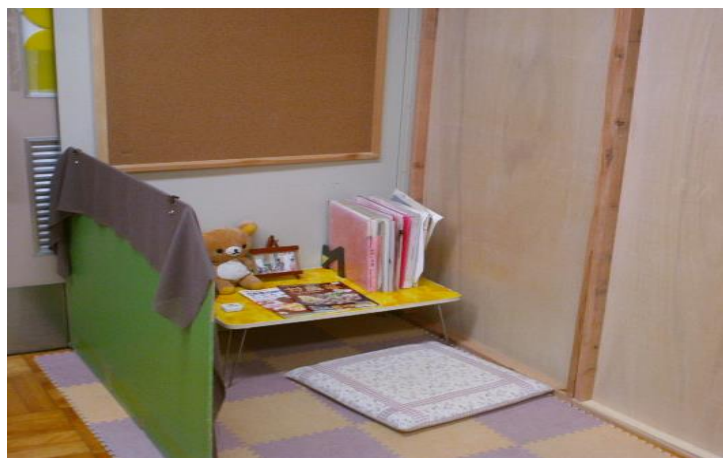


机と椅子(家具),衝立の活用

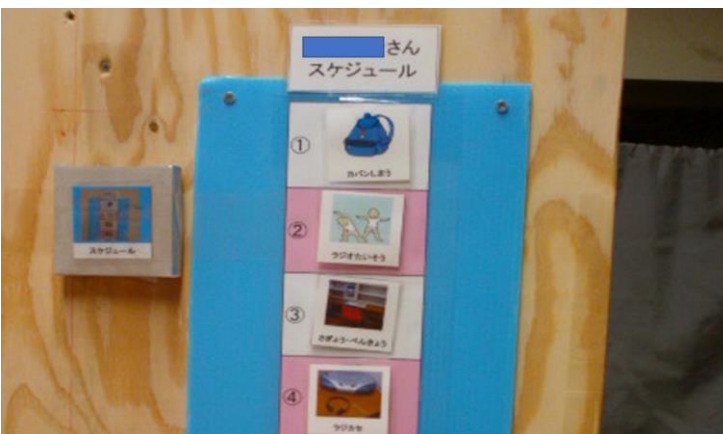
## [活動・場所の1対1対応]



作業専用の場所



休憩専用の場所



スケジュールを確認する場所

## [刺激の調節]



衝立,カーテン (視覚刺激)



衝立の活用 (行う活動の明示)



道具置場の目隠し(視覚刺激)

※)上記は対応の一例です

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

## どんな特性に配慮しますか

### ■関係のありそうな特性

- 2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい(社)  
 6) 見えないものの理解が難しい(社)  
 7) 話し言葉の理解が難しい(コ)  
 9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい(コ)  
 18) 今やることを自分で判断することが難しい(想)  
 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある(感)  
 26) 視覚の過敏や鈍麻がある(感)

### ■支援のアイディア

- A) 「汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える」  
 C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見て分かるように伝える  
 H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする  
 K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする  
 ※) 上記は視点の一例です



# 【場所の工夫】 (活動との対応・刺激の整理)



- \* A) 「具体的に伝える」…「相手の気持ち」は汲み取りづらいので分かり易く「ルール」を明示する…2),6),9)
- \* C) 「どこで」「何を」…「見える形」は具体的で分かり易い…6),7),9)
- \* H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする
  - …「活動」と「場所」の1対1対応⇒「場所」の移動で場面の「終わり」が分かりやすくなり、切換え易くなる…6),18)
  - ※一般的には「重度」ほど「活動」と「場所」の1対1対応は重要
- \* K) 苦手な刺激を少なくする
  - … 情報が多いと「今行う活動」が分かりにくい為、「行う活動」だけ見えるようにしたり、集中の妨げになる視覚,聴覚刺激を調節する…18),25),26)

【場所の工夫】  
(活動との対応・刺激の整理)










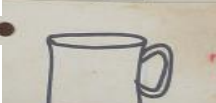
- ＊環境設定前に活動スペースの全体的な刺激の量や間取りの把握を行う
- ・人通りの多い/少ない場所
  - ・机の向き（外の景色が刺激になる場合,窓側を避け机を壁に向ける等）
  - ・静かな場所(休憩を取り易い)・・・等々
- 全体の「場」の把握をしてから  
各活動エリアを決めていくことも  
有効な視点のひとつ



# 方法の工夫 (やり方・終わり・次)

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
  - ーやることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。



- ① 
- ② 
- ③ 
- ④ 
- ⑤ 
- ⑥ 
- ⑦ 
- ⑧ 

- 34



- ①AのカードをとりAのカゴの封筒の中に入れる
- ②左手のAと書かれたカゴをとり机の上におき、カゴの中の作業を行う
- ③作業が終わったらカゴをおしまい箱に入れる
- ④①～③を繰り返す 左のテーブルから作業が無くなったら終わり

- ①終わった作業カゴをオレンジ色のカゴに入れる
- ②左の椅子の上の作業カゴをとる
- ③机に戻り作業を行う
- ④ ①～③を繰り返す



課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手がしているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
感覚	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

どんな特性に配慮しますか

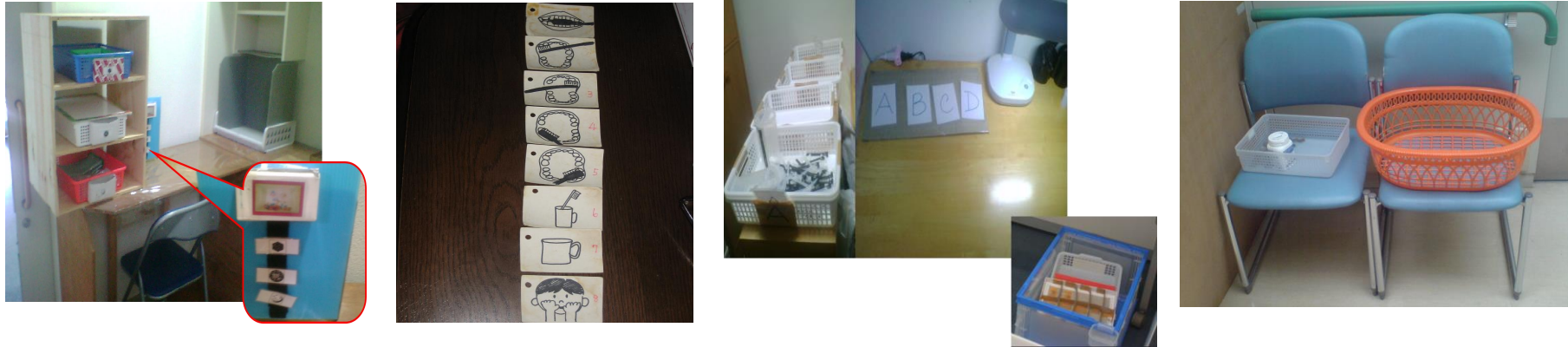
■ 関係のありそうな特性

- 8)一度にたくさんのことを理解するのが難しい(コ)
- 16)段取りを適切に組む事ことが難しい(想)
- 19)先の予測をすることが難しい(想)

■ 支援のアイディア

- D)本人が理解できる見える情報(文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など)で伝える
- H)始まりや終わりを分かりやすいようにする
- I)活動に意味や目的をもつことができる工夫をする
- ※)上記は視点の一例です

# 方法の工夫 (やり方・終わり・次)



## ■ 支援のアイデア

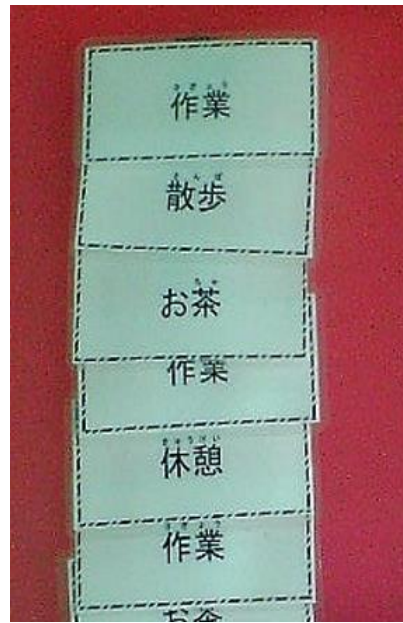
D) 本人が理解できる見える情報…1場面の活動の流れや量を具体的に「見える化」して伝える。ひとつずつ行えるようにする…8),19)

H) 「始まり」や「終わり」…場面ひとつの「活動の流れ・手順」や「始まり・終わり」が「見てわかる」ように伝える…8),16)

I) 活動に意味や目的をもつことができる工夫

…「棚の課題を全て終わらせたら終了」「上からひとつずつ課題を行う」などを「見て分かる」ようにして「場面ひとつの流れや終わり」や「目標」を伝え、場面の見えない「意味」を「見える化」して本人の見通しを助ける  
…8),16),19)

# 「時間の工夫」と「方法の工夫」の内容の違い



「時間の工夫」⇒基本的に  
「活動場所の順番」を伝える  
(仕事机, 休憩室, トイレ等)



「方法の工夫」⇒基本的にひとつの  
場所で行う「活動の順番」  
(組立課題, パズル, マッチング課題等)

# 見え方の工夫 (ヒント・着目)

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
  - －必要な情報に注目しやすくする工夫
  - －見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
  - －情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫





左側のアニメキャラクターの  
カードを外し右側のキャラクター見本と  
おなじ枠内に入れていく



左側の木製ビーズをひとつずつとり  
右側の容器の中に入れていく



右上のランチョンマットカードを左下  
の固定台の上に置き、スプーン・皿（ミニ  
チュア）・フォークをつけて完成品を  
右側の箱に入れる



真ん中上の指示書（数字・文字・絵）  
を見ながら下の部品を組んでゆき  
完成したら真ん中のくりぬかれた  
ケースの中に入れる



課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手がしているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
感覚	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

どんな特性に配慮しますか

■ 関係のありそうな特性

- 8)一度にたくさんのことを理解するのが難しい(コ)
- 16)段取りを適切に組む事ことが難しい(想)
- 19)先の予測をすることが難しい(想)

■ 支援のアイディア

- D)本人が理解できる見える情報(文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など)で伝える
- H)始まりや終わりを分かりやすいようにする
- I)活動に意味や目的をもつことができる工夫をする

※)上記は視点の一例です

# 見え方の工夫 (ヒント・着目)



左側のアニメキャラクターのカードを外し右側のキャラクター見本とおなじ枠内に入れていく



左側の木製ビーズをひとつずつとり  
右側の容器の中に入れていく



左上のランチョンマットカードを左下の固定台の上に置き、スプーン・皿（ミニチュア）・フォークをつけて完成品を  
右側の箱に入れる



真ん中上の指示書（数字・文字・絵）を見ながら下の部品を組んでゆき  
完成したら真ん中のくりぬかれたケースの中に入れる

D) 本人が理解できる見える情報…ひとつの作業の流れや量, 終わりを具体的に「見える化」して本人に分かりやすく伝える。…8), 19)

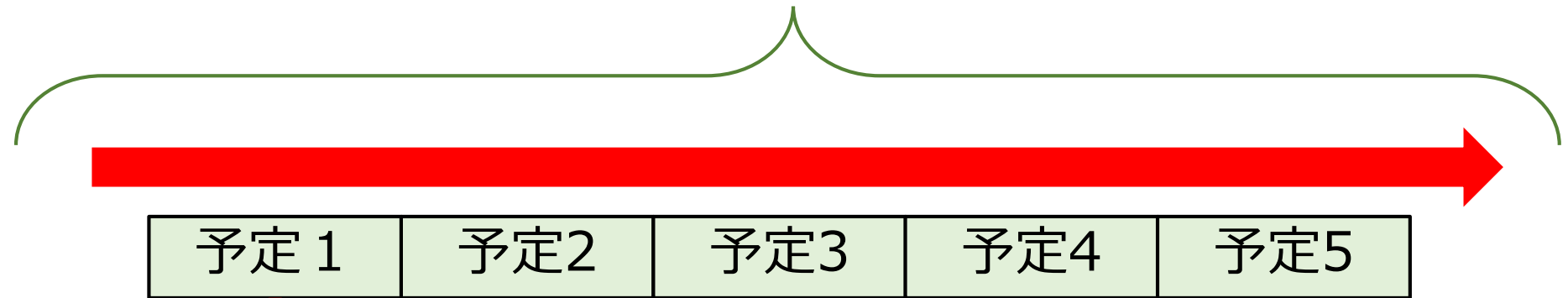
H) 「始まり」や「終わり」…作業ひとつの「活動の流れ・手順」や「始まり・終わり」を「見てわかる」ように伝える…8), 16)

I) 活動に意味や目的をもつことができる工夫

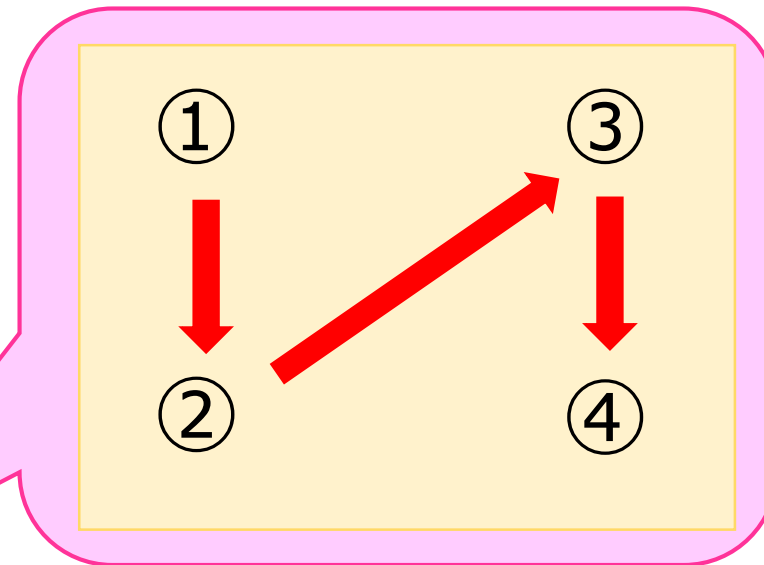
…「材料が無くなったら終了」「完成ケースが埋まったら終了」などを「見て分かる」ようにして  
「作業ひとつの流れや終わり」や「完成」を伝え作業の方法という見えない「意味」を「見える化」して見通しを助ける  
…8), 16), 19)

# 時間の工夫・方法の工夫・見せ方の工夫の関係

[時間の工夫] 全体的な予定（時間）の流れ



方法の工夫  
「ひとつの予定」の中の  
作業/活動の  
手続きと終わり



見せ方の工夫  
「ひとつの  
作業/活動」  
の中の  
手続きと終わり

# やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために

ー コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート





コミュニケーションボード  
要求したいことを選んで  
ボードからカードをとって  
支援者に渡す



PECS（ペクス・絵カード交換式  
コミュニケーションシステム）  
下の文章ボードを使って  
様々な支援者に要求や説明ができる



複数のコミュニケーションカードを  
リングに通して携帯式にして  
色々な場所で伝えたいことを  
選んで支援者に見せる



低ナトリウム血症（水中毒）の  
利用者への配慮としてトイレが  
施錠となった施設での  
「解錠要求カード」の例

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手がしているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点）
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）

どんな特性に配慮しますか

■ 関係のありそうな特性

- 6)見えないものの理解が難しい(社)
- 10)話し言葉で伝えることが難しい(コ)
- 11)どのようにして伝えたらいいかわからない(コ)
- 12)誰に伝えていいかわからない(コ)

■ 支援のアイディア

- A)汲み取ってもらう,察してもらうではなく,具体的に伝える
- B)誰にどう伝えたら良いかを具体的に伝える
- C)「いつ」「どこで」「何を」の情報を見て分かるように伝える
- D)本人が理解できる見える情報(文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など)で伝える
- E)本人が発信しやすいツールを(文章,単語,絵,写真,シンボル,具体物など)提供する
- F)視覚的なツールでやりとりできるようにする

※)上記は視点の一例です

# やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)



- A) 汲み取ってもらう, 察してもらうではなく, 具体的に伝える
- B) 誰にどう伝えたら良いかを具体的に伝える
- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見て分かるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報(文章, 単語, 絵, 写真, シンボル, 具体物など)で伝える
- E) 本人が発信しやすいツールを(文章, 単語, 絵, 写真, シンボル, 具体物など)提供する
- F) 視覚的なツールでやりとりできるようにする

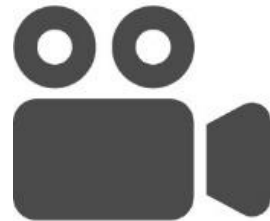
- \* タブレット, 絵カード, 具体物など当事者個々に理解できるツールを調べる
- \* 伝えたい相手にコミュニケーションツールを渡したり見せる事を、  
これも視覚的に具体的に教える
- \* コミュニケーションツールの場所は  
本人の見える場所に置いたり、  
置き場所を伝えておき  
必要な時に使えるようにしておく

A)～F)で補う特性 …6), 10), 11), 12)

④－1

# 具体的な支援のアイデアを動画で

<～鈴木さん> 編

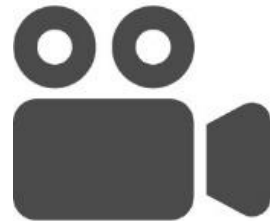




④－2

# 具体的な支援のアイデアを動画で

< 5つの工夫 > 編

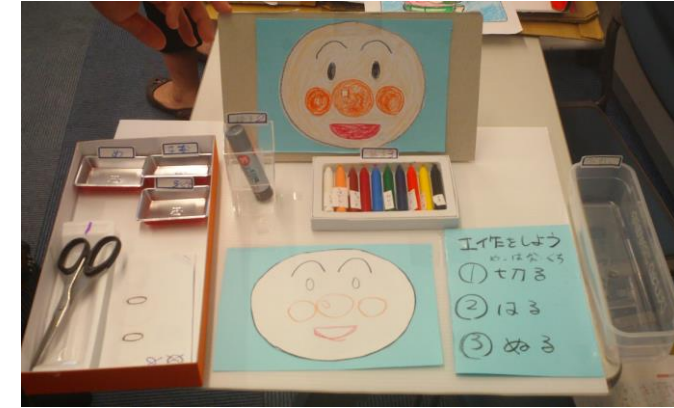


## ⑤ 支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。  
そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

# 補足（もういちど）

## － “好きなこと” “興味関心” “得意” の活用



Make 'em Happy



\* 個別の“好きなこと,興味関心,得意”をうまく活用できると  
自閉スペクトラム症の方達のモチベーションが  
高くなります。

\* 「好き」「得意」な活動は自閉スペクトラム症,  
強度行動障害の状態の方にとって  
「強力な味方」になります。



# 支援のアイデア(事例)

社会福祉法人 正夢の会  
障害者支援施設 パサーージュいなぎ  
支援ディレクター 堀内太郎

---

Senzaki Port, Nagato City  
Yamaguchi Prefecture

# 事例：Aさん（当時29歳：男性）

診断名：知的障害（愛の手帳2度）自閉傾向  
IQ＝20（推定） CA（生活年齢）18  
MA（精神年齢）表記なし

有意義語若干あり（トイレ・アケテ・クスリ等）  
文字は名前のみ書ける。写真等は理解できる。

入所施設利用開始時は激しく混乱，他傷行為・破衣等あり。

施設生活に慣れ、日課をパターンで理解することにより  
安定化するが、服薬ケースの状態・他利用者  
スタッフの動き等に強くこだわり  
他利用者を巻き込む様になる。



# Aさん生活ユニットの様子（ビデオ）



カテゴリー	行動面での特徴
社会性	＊人との関わりが一方的 （他利用者の部屋に入ってまで服薬を済ませようとする）
コミュニケーション	＊行動で自分の気持ちを表してしまう ＊言葉で自分の気持ちを伝えることができない （薬袋をケースに戻して欲しい事を言葉で表現できない）
想像力	＊自分のルール（思い込み）を変えると混乱する （薬袋がいつものようにケースに戻らないと気になる） ＊特定の物などへのこだわりや執着がある （薬袋、水道や椅子の位置、他利用者の動きなど）
感覚	＊視覚的な刺激にひきずられる傾向

# 当時の支援課題(日中活動)

Aさん：

入所施設から1 km離れた日中活動分場で受注作業に従事。

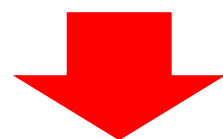


当時の支援課題

①材料箱の位置・服薬ケース(共用)のこだわり  
⇒他利用者とトラブル

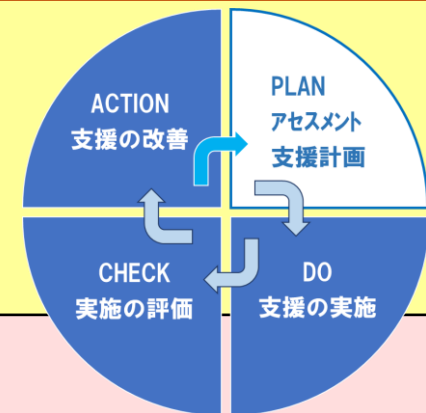


②施設から運ばれる昼食のスタッフにこだわる  
⇒人手がない時は本部入所スタッフが配達していたが  
「昼食は分場スタッフが搬入」する「自分ルール」  
が強く働き混乱，追い返す

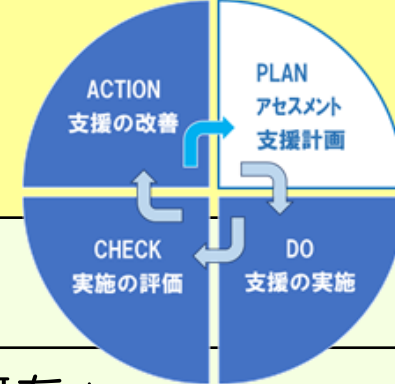


分場での生産的活動は無理と判断され  
本部入所の生活介護グループに編入

# 生活介護グループ編入前のアセスメント（１） （背景となる特性の「仮説」立て）



カテゴリー	行動面での特徴	背景となる特性(脳の情報処理)
社会性	＊一方的な関わり （自分ルールの強い主張）	2) 相手から期待されていることの理解が難しい 6) 見えないものの理解が難しい
コミュニケーション	＊行動で気持ちを表してしまう （自分の思い通りにしようと他利用者に強く関わる）	9) 抽象的なことの理解が難しい （他人の予定, 自分の予定） 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
想像力	＊自分ルールを変えると混乱 ＊こだわりや執着	18) 今やることを自分で判断することが難しい 21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい(独特な自分ルール) 24) 少しの違いで大きな不安
感覚	＊視覚的な刺激に弱い	26) 視覚の過敏さがある （見たものに強くひきずられてしまう）



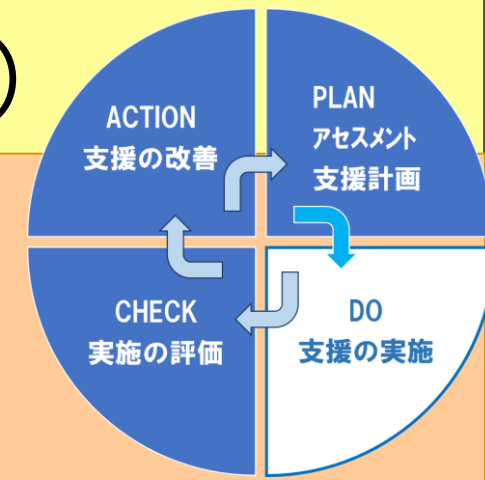
# 生活介護グループ編入前のアセスメント（２） （「仮説」の特性に合わせて方針を立てる）

カテゴリー	背景となる特性(脳の情報処理)	支援のアイディア
社会性	2) 相手から期待されていること の理解が難しい 6) 見えないものの理解が難しい	C) 「いつ・どこで・何を」 するか可視化して伝える （自分の作業に集中）
コミュニケーション	9) 抽象的なことの理解が難しい （他人の予定, 自分の予定） 11) どのようにして伝えたら いいかわからない	D) 見える情報で伝える （写真の理解あり, Aさんの予定 だけ見える環境をつくる）
想像力	18) 今やることを自分で判断する ことが難しい 21) 自分のやり方から抜け出すこと が難しい(独特な自分ルール) 24) 少しの違いで大きな不安	G) 写真スケジュールで 分かりやすく予定や 変更を伝える J) 最初から正しい方法で行う ことができるようにする
感覚	26) 視覚の過敏さがある （見えたものに強くひきず られてしまう）	K) 苦手な刺激を減らす （Aさんに関係のある活動だけ 見える環境）

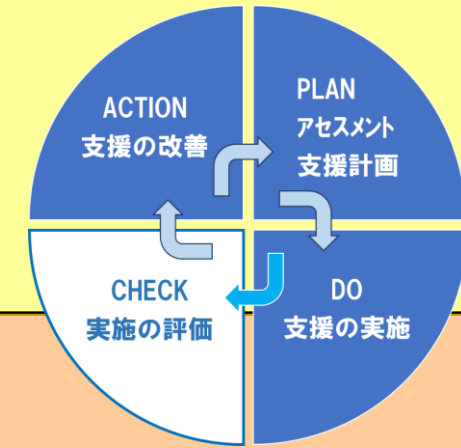
その他：興味関心, 強みの評価  
⇒音楽鑑賞(休憩時), 単純作業得意

# Aさん 日中活動環境の環境調整（初回）

- \* スケジュール：写真カードで半日スパン提示
- \* こだわり回避：予定の配列は毎日変えて提示
- \* 衝立・カーテンの活用：Aさんの活動に必要な物だけ見せる
- \* 余暇：[音楽鑑賞]等好きな活動を取り入れる







# 初回の環境調整の評価

## <成果>

- \* 視覚刺激の整理 ⇒ 活動中のトラブル, 混乱無くなる
- \* スケジュール支援 ⇒ 毎日違う予定提示にも順応, 柔軟性獲得
- \* 未経験の散歩提供を導入 ⇒ 提供日と未提供日を入れ固執回避

## ■ 「スケジュール」と「ルーティン」の違い

ルーティン

A～Dの流れがいつも同じ

$A \Rightarrow B \Rightarrow C \Rightarrow D$

(“同じ順序” へのこだわりを生む)

スケジュール

「左から右」「上から下」等の“法則性”

# 1  $A \Rightarrow B \Rightarrow C \Rightarrow D$

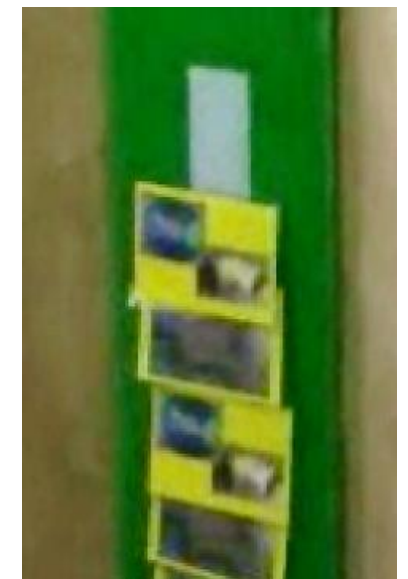
は教えるが、**順序は毎日ランダム**に提示

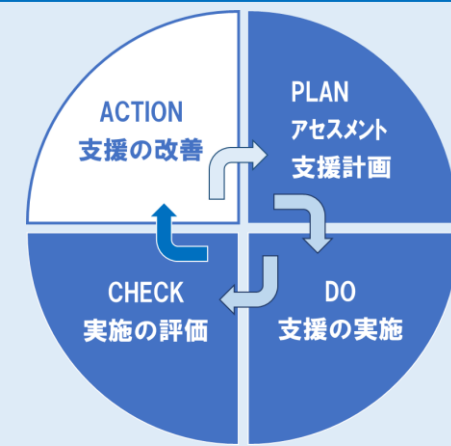
# 2  $B \Rightarrow C \Rightarrow D \Rightarrow A$

(“同じ順序” への固執を避ける

# 3  $A \Rightarrow D \Rightarrow A$

＝柔軟性の獲得が目的)





## <課題・改善点1>

### \*作業・休憩エリア配置の問題

⇒作業・休憩エリアが隣接している為、  
支援スタッフが次場面のセッティングをすると気にして  
隣接エリアからのぞき込み、活動から注意がそれてしまう

### \*カード提示の長さ（半日提示）

⇒「散歩」等、慣れないスケジュールは不安から外そうとする  
先のことはあまり気にしていない(昼食はいつ？等)  
先のことよりも“次が何か”がとても気になる  
⇒次の場面のみの提示（1場面提示）の方が  
分かりやすいのでは？



## <課題・改善点2>

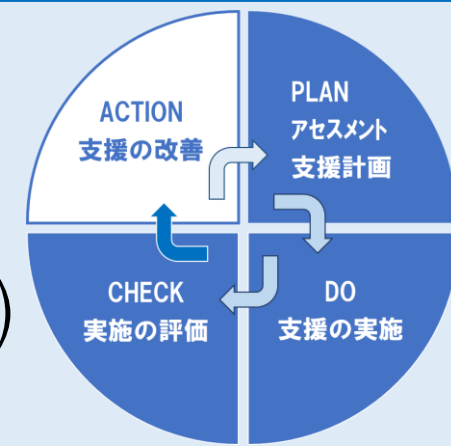
### \*作業・休憩エリア配置の問題2

⇒作業・休憩エリア(CDラジカセ)・休憩エリア(パズル)とエリア数を3つに増やした方が,「次の予定」をカードで判断せざるを得ない為,スケジュールへの注目が高まるのではないかな?

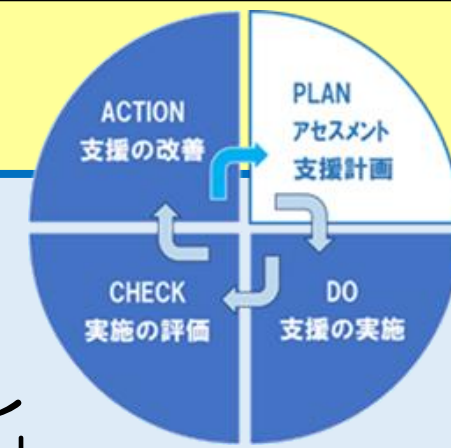
### \*作業カードを「机」のみから「作業種毎」に変更

⇒Aさんが気にしているのは“次の場面が何?”ということ  
作業種毎に作業場面のカードを提示することで,次場面提示から明確な見通しを得ることができるようになるのでは?

### \*スタッフセッティング：スタッフの動きが“刺激”として強い



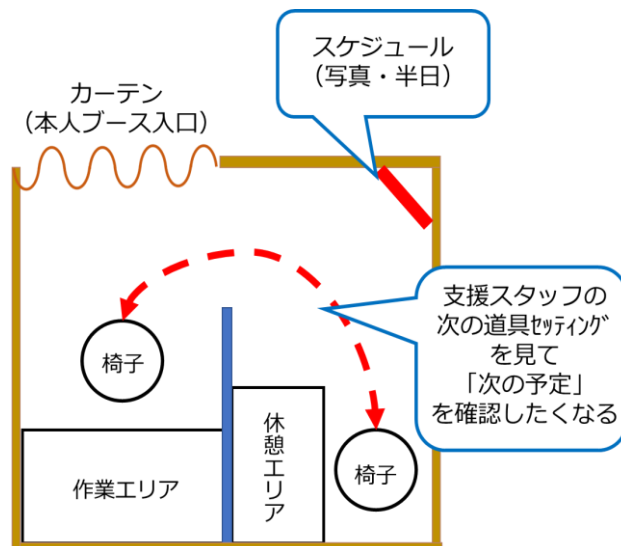
# 再環境調整



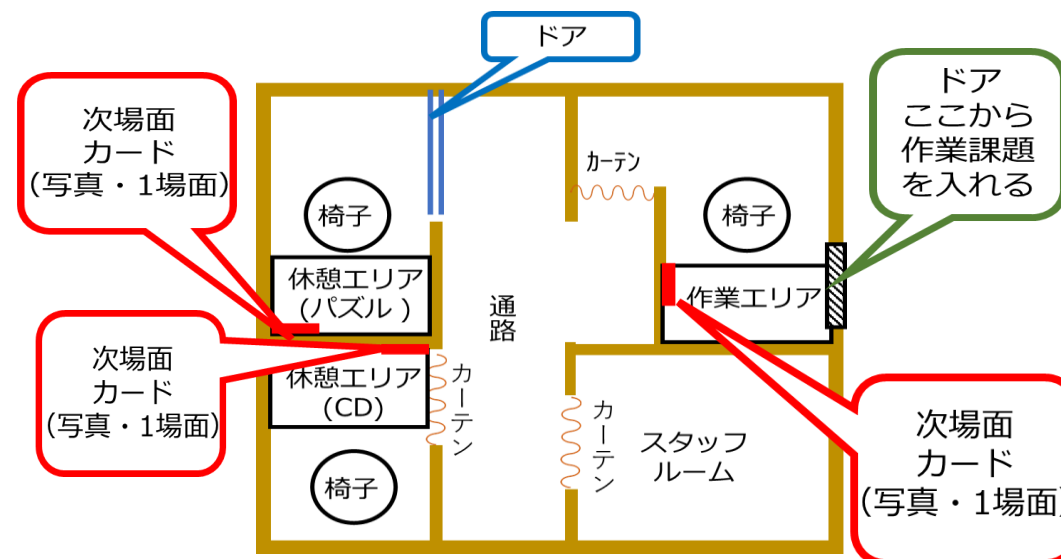
## <再環境調整>

- ①スケジュール：半日⇒1場面に変更,次場面を明確化
- ②作業エリアと休憩エリアの位置を離す
- ③エリア数：活動エリアを2つから3つに増やす
- ④作業カード：「椅子＋机」⇒“作業種毎”のカードで伝達
- ⑤作業エリアのセッティング：作業セッティングを活動ブースの裏手から行えるドアをつくり“人の動き(刺激)”を減らす

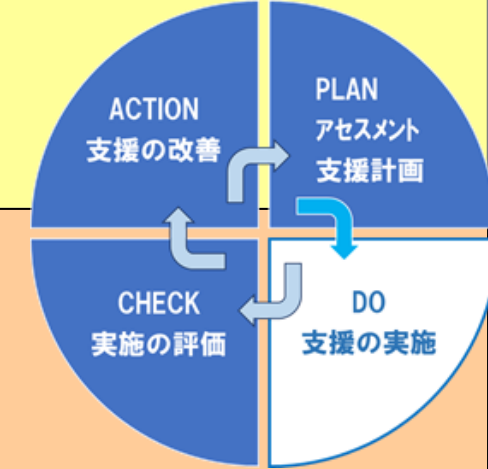
### 初回の環境調整



### 2回目の環境調整



# 環境調整(2回目)

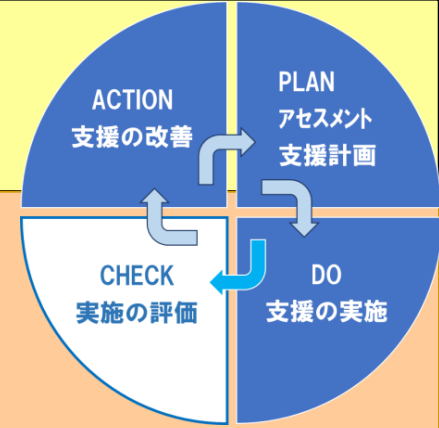


- \* スケジュール：1場面提示,作業カードは作業種毎提示
- \* 活動エリア：2⇒3に増設,エリア間の距離を離す
- \* 人刺激の軽減：Aさんブース裏手よりセッティング(作業のみ)





# 2回目の環境調整の評価



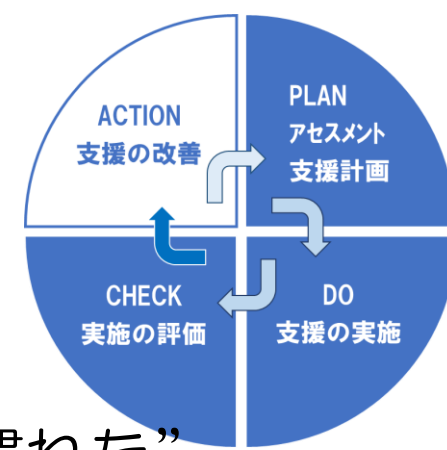
## <成果>

- \* スケジュール：1場面提示により[次の活動] が明確に
- \* エリアを離す：次場面をのぞき(確認)に行く回数が激減
- \* エリア数：2つ⇒3つに増やす事によりカードを通じて  
“次場面の見通し” 得られるようになる
- \* 作業カード：“次の作業” が明確になることにより  
こちらものぞき(確認)回数が激減
- \* セッティング用扉：活動ブース裏手からのセッティングにより  
“刺激” が減りのぞき(確認)回数が減った



# その後～

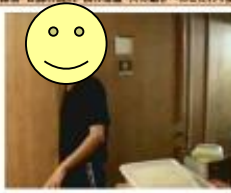
特性に沿った環境調整＝合理的配慮のある支援を  
継続的に提供し本来Aさんに備わっている“力”を  
蓄えていった結果、16年後に法人グループホームに  
生活の場を移行、Aさんにとって不安の高まる新規場面で“普段使い慣れた”  
環境を引越先に準備したり  
ご家族,GHスタッフのアイディア,ご協力を得て  
無事地域生活への移行に成功することができた




Structured TEACCHing 2007 ⇒ 2023  
～Meaning Of Structured Teaching～

**Aさん生活ユニットの様子(ビデオ)**

■ 社会性の育成: 日課のこだわり通りに進むよう、他利用者と一緒に行動する  
■ コミュニケーションの育成: 言葉遣いを丁寧に教えるが、上手に伝えられない  
■ 運動能力の育成: 日課の遊び・物の位置・人の動きへのこだわり強い




**Aさん 日中活動環境の構造化(初回)**



- ＊スケジュール: 半日提示(写真)
- ＊物理的構造化: 自分に関係ない視覚刺激を除去
- ＊余暇: 「音楽鑑賞」等好きな活動を取り入れる




**再構造化②**

(1) (2)



(1) 各作業種毎にカードを分けて「次場面を明確に伝える」  
(2) 「作業」「CDラジカセ」「パズル」の3エリアに分ける  
⇒ 「写真カードを確認」して移動できる様、環境調整

**2007**  
↓  
**2023**



Make 'em Happy



# まとめ

- [こだわり]が何故生まれるのか,「本人目線」で背景を考え「視覚的学習+同じ流れの繰り返し=固執」のメカニズムや「当事者からみた刺激」などAさんから沢山学べた。
- 「最適な環境」を目指して「再アセスメント」「再環境調整」「環境をAさんに合わせて」いった結果、Aさんの反応から納得感・安心感を感じ「環境調整」の大切さを再確認した。
- 「特性に合わせた環境調整(合理的配慮)」の継続提供で「生活し辛い」繊細さを持つAさんの地域生活移行が実現した



PDCAサイクルでアセスメントと  
環境調整を「進化」させる